

口頭発表

秋田県湯沢市における EPA 介護士・看護師候補生に対する トレーニングペーパーを中心とした日本語教育支援

佐野 ひろみ・嶋 ちはる

(国際教養大学)

2010年4月から2012年3月まで秋田県湯沢市の医療法人で実施したインドネシア人 EPA 看護師候補生2名に対する日本語教育支援の報告を中心とし、併せて、今年度から引き続いて実施しているフィリッピン人介護士候補生3名および同看護師候補生2名に対する日本語教育支援の事例報告をする。

どちらも毎日のトレーニングペーパーを中心とした学習支援と毎月の訪問授業の組み合わせた支援活動となるが、2010年から2年間の支援活動を実施した候補生は、2名のうち1名が国家試験に合格し、現在も湯沢市の同医療法人で看護師の仕事に従事している。

新規に赴任したフィリッピン人候補生5名は、現在日本語学習に取り組んでいる渦中で、まだ結果は出ていないが、新規に「介護の漢語サポーター」ウェブサイトを利用した、介護士候補生向けのトレーニングペーパーを作成、実施しているため、その進捗状況などを併せて報告する。

話題提供

地域で取り組む外国人介護ヘルパーのための日本語教育 —東京都墨田区における実践より—

中野 玲子・宇津木 晶

(すみだ日本語教育支援の会)

介護の担い手として、経済連携協定（EPA）により来日した介護福祉士候補生のみならず、日本人配偶者等の滞在資格を持つ外国人介護従事者（以下外国人介護従事者）の存在に着目することも重要である。H21年の東京都社会福祉協議会の報告によると、都内の介護老人福祉施設で外国人介護従事者が就労している施設は32%に上る。その一方、EPA 候補生の受け入れ施設はH21年時点で1.3%、受け入れ予定がある施設は2.5%となっている。このような状況を受けて、「すみだ日本語教育支援の会」では、東京都墨田区において介護人材の育成・地域の福祉力向上を目的として、主に外国人介護従事者向けに日本語教室を開催している。本発表では、地域の仲間として生活する外国人介護従事者を、地域全体で支えようという東京都墨田区における取り組みを紹介する。今後の介護の日本語教育においては、学習者のため、介護現場のための教育を目的とするのみではなく、将来に向けた介護人材の育成、また地域の福祉力向上も見据えた取り組みが必要とされる。